



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東  
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 吉田 仁平  
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員経営管理本部長（氏名） 三吉 達治（TEL） 03-6706-4000  
 半期報告書提出予定日 2025年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		調整後EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	8,332	△12.0	979	△28.6	499	△42.7	467	△44.6	206	△53.2
2024年12月期中間期	9,467	0.4	1,371	10.0	872	19.0	845	19.8	441	29.5

（注）包括利益 2025年12月期中間期 206百万円（△53.2%） 2024年12月期中間期 441百万円（29.5%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	36.94	36.83
2024年12月期中間期	73.17	72.91

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	16,132	7,581	46.9
2024年12月期	17,294	7,486	43.3

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 7,572百万円 2024年12月期 7,481百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	23.00	23.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	42.00	42.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

（注）当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本方針としております。

（注）配当予想の修正については、本日（2025年8月14日）公表いたしました「通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,463	△10.8	2,398	△13.8	1,418	△20.6	1,364	△21.0	636	△51.1	113.95

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

（注）連結業績予想の修正については、本日（2025年8月14日）公表いたしました「通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P10「(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年12月期中間期	6,301,986株	2024年12月期	6,283,986株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	713,699株	2024年12月期	716,353株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年12月期中間期	5,585,323株	2024年12月期中間期	6,030,924株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、景気は緩やかな回復が続きました。一方で、物価上昇の継続による個人消費の下振れリスクの高まりや米国の通商施策の動向、地政学リスクの上昇、不安定な円相場による影響等、依然として不透明な事業環境が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、紙の出版市場が縮小している一方で、電子出版市場は継続的に拡大しており、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2025」によると、2025年度の成長率は4%程度になると予測されており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模は緩やかな拡大が続くことが予想されております。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては、コミック配信サービス「まんが王国」のブランド構築に注力しつつ効率的な投資を、コンテンツセグメントにおいては、継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は8,332,274千円(前中間連結会計期間比12.0%減)、営業利益は499,862千円(前中間連結会計期間比42.7%減)、経常利益は467,949千円(前中間連結会計期間比44.6%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は206,324千円(前中間連結会計期間比53.2%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、「お得感No.1」戦略による課金意欲の高いロイヤルカスタマーへの育成を継続するとともに、「まんが王国」内にて、一定時間経過するごとに1話が無料で読めるサービス「待ちコミ」の提供を開始し、幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。

一方で、ライトユーザーの獲得・定着を図るため、前期よりライトユーザーを中心とした広告運用を行い、新規ユーザーの獲得が進んだ反面、当初の想定よりヘビーユーザーが減少した結果、「まんが王国」の売上高は前中間連結会計期間比13.4%減となりました。

また、2025年3月には当社オリジナル作品「夜蜘蛛は蜜をすう〜結婚詐欺師と墮ちる女〜」を原作としたショートドラマが、ショートドラマアプリ「BUMP」にて配信されました。

利益面においては、広告宣伝費を中心とした営業費用が前中間連結会計期間比で減少いたしましたが、売上高の減少に伴い、売上総利益についても前中間連結会計期間比で減少いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は5,231,108千円(前中間連結会計期間比14.5%減)、営業損失は50,271千円(前中間連結会計期間は営業利益274,335千円)となりました。

(コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、デジタルコンテンツを中心に、発刊点数の増加、電子書店ごとの特性や読者ニーズに沿った販売促進活動を積極的に行いました。また、紙出版においては、紙出版市場の縮小を鑑み、配本部数の管理及び価格設定等のコストコントロールを実施いたしました。

デジタル出版においては、読者の嗜好性に合わせたコンテンツの創出とジャンルの拡大を推進した一方で、前期における販売促進活動の奏功による増収効果の反動等から、売上高は前中間連結会計期間比1.8%増となりました。

紙出版においては、配本部数のコントロール及び雑誌の隔月化や休刊を実施した結果、売上高は前中間連結会計期間比27.0%減となりました。

このほか、2025年4月にはぶんか社から2作品がテレビドラマ化し、「黒弁護士の痴情 世界でいちばん重い純愛」がTOKYO MXにて放送、「子宮恋愛」が読売テレビにて放送されました。

利益面においては、デジタル出版収益が前中間連結会計期間比で増加した一方で、紙出版収益が前中間連結会計期間比で減少いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,221,900千円(前中間連結会計期間比6.5%減)、営業利益は550,038千円(前中間連結会計期間比8.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における資産合計は16,132,057千円となり、前連結会計年度末に比べ1,162,522千円減少しました。

流動資産は7,775,189千円となり、前連結会計年度末に比べ804,715千円減少しました。これは主に、現金及び預金が661,099千円、売掛金が135,906千円減少したことによるものです。

固定資産は8,356,867千円となり、前連結会計年度末に比べ357,807千円減少しました。これは主に、無形固定資産が386,534千円減少したことによるものです。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は8,550,664千円となり、前連結会計年度末に比べ1,257,380千円減少しました。

流動負債は7,275,664千円となり、前連結会計年度末に比べ747,380千円減少しました。これは主に、未払金が123,803千円増加した一方で、支払手形及び買掛金が627,298千円、未払消費税等が121,571千円、返金負債が110,560千円減少したことによるものです。

固定負債は1,275,000千円となり、前連結会計年度末に比べ510,000千円減少しました。これは、長期借入金が510,000千円減少したことによるものです。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は7,581,393千円となり、前連結会計年度末に比べ94,857千円増加しました。これは主に、利益剰余金が78,269千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、46.9%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は4,457,626千円となり、前連結会計年度末に比べ661,099千円減少しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動においては、税金等調整前中間純利益467,949千円から、主な加算項目として、減価償却費178,580千円、のれん償却額295,324千円、売上債権の減少額142,539千円、未払金の増加額123,803千円等がありました。これに対して主な減算項目として、仕入債務の減少額627,298千円、返金負債の減少額110,560千円、未払又は未収消費税等の増減額121,571千円、法人税等の支払額264,176千円等がありました。

この結果、獲得した資金は57,865千円(前中間連結会計期間は1,004,001千円の獲得)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動においては、主な資金減少要因として、無形固定資産の取得による支出77,730千円等がありました。

この結果、使用した資金は87,454千円(前中間連結会計期間は90,606千円の使用)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動においては、主な資金減少要因として、長期借入金の返済による支出510,000千円、配当金の支払額127,898千円等がありました。

この結果、使用した資金は631,510千円(前中間連結会計期間は602,936千円の使用)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の業績を考慮し、2025年2月14日の「2024年12月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2025年8月14日)に公表しました「通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,118,725	4,457,626
受取手形	26,372	19,739
売掛金	3,266,083	3,130,177
商品及び製品	63,594	62,388
貯蔵品	459	374
前渡金	30,451	36,416
前払費用	74,842	76,645
未収入金	6,370	797
その他	912	960
貸倒引当金	△7,907	△9,936
流動資産合計	8,579,904	7,775,189
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	75,258	76,491
工具、器具及び備品	156,125	164,706
減価償却累計額	△181,863	△191,504
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	62,580	62,753
無形固定資産		
のれん	7,737,721	7,442,396
ソフトウェア	91,852	92,296
コンテンツ資産	218,740	212,911
ソフトウェア仮勘定	7,500	36
コンテンツ資産仮勘定	6,013	6,320
著作権	275,333	196,666
その他	1,032	1,032
無形固定資産合計	8,338,195	7,951,660
投資その他の資産		
敷金及び保証金	174,439	174,439
繰延税金資産	120,780	147,998
その他	18,680	20,015
投資その他の資産合計	313,899	342,453
固定資産合計	8,714,675	8,356,867
資産合計	17,294,580	16,132,057

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,228,859	2,601,561
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,020,000	1,020,000
未払金	228,061	351,864
未払費用	42,944	42,717
未払法人税等	285,461	307,940
未払消費税等	139,947	18,375
契約負債	568,950	539,472
返金負債	299,948	189,388
預り金	55,357	97,859
その他	153,513	106,484
流動負債合計	8,023,044	7,275,664
固定負債		
長期借入金	1,785,000	1,275,000
固定負債合計	1,785,000	1,275,000
負債合計	9,808,044	8,550,664
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,906,359	1,910,859
資本剰余金	1,905,859	1,910,491
利益剰余金	4,712,788	4,791,057
自己株式	△1,043,514	△1,039,647
株主資本合計	7,481,492	7,572,760
新株予約権	5,043	8,632
純資産合計	7,486,535	7,581,393
負債純資産合計	17,294,580	16,132,057

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	9,467,721	8,332,274
売上原価	6,156,878	5,469,407
売上総利益	3,310,843	2,862,866
販売費及び一般管理費	2,438,572	2,363,004
営業利益	872,270	499,862
営業外収益		
受取利息	16	1,336
受取配当金	127	107
受取返戻金	1,254	—
還付金収入	—	1,167
その他	287	358
営業外収益合計	1,685	2,970
営業外費用		
支払利息	24,174	30,364
融資手数料	2,617	2,611
その他	1,841	1,906
営業外費用合計	28,633	34,883
経常利益	845,322	467,949
税金等調整前中間純利益	845,322	467,949
法人税、住民税及び事業税	404,045	261,624
法人税等合計	404,045	261,624
中間純利益	441,276	206,324
親会社株主に帰属する中間純利益	441,276	206,324

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益	441,276	206,324
中間包括利益	441,276	206,324
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	441,276	206,324

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	845,322	467,949
減価償却費	200,250	178,580
のれん償却額	295,324	295,324
支払利息	24,174	30,364
融資手数料	2,617	2,611
売上債権の増減額(△は増加)	94,867	142,539
仕入債務の増減額(△は減少)	△24,309	△627,298
未払金の増減額(△は減少)	△15,812	123,803
未払費用の増減額(△は減少)	7,392	—
契約負債の増減額(△は減少)	△6,177	△29,478
返金負債の増減額(△は減少)	△59,478	△110,560
未払又は未収消費税等の増減額	87,616	△121,571
その他	△45,271	△1,056
小計	1,406,516	351,206
利息及び配当金の受取額	144	1,444
利息の支払額	△24,209	△30,608
法人税等の支払額	△378,449	△264,176
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,004,001	57,865
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△8,415	△9,813
無形固定資産の取得による支出	△82,367	△77,730
その他	177	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	△90,606	△87,454
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△510,000	△510,000
融資手数料の支払による支出	△2,617	△2,611
株式の発行による収入	—	9,000
配当金の支払額	△90,318	△127,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	△602,936	△631,510
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	310,458	△661,099
現金及び現金同等物の期首残高	4,825,497	5,118,725
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,135,956	4,457,626

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年3月27日 定時株主総会	普通株式	128,055	23.00	2024年12月31日	2025年3月28日	利益剰余金

## 2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の金額の著しい変動

当中間連結会計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ4,500千円増加しております。

また、当社は、2025年3月27日開催の取締役会決議に基づき、2025年4月25日付で当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式2,654株の処分を行いました。これにより資本剰余金が132千円増加し、自己株式が3,866千円減少しております。

これらの結果、当中間連結会計期間末において資本金が1,910,859千円、資本剰余金が1,910,491千円、自己株式が1,039,647千円となっております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## 税金費用の計算

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	5,713,507	—	5,713,507	—	5,713,507
他社配信	189,503	2,359,807	2,549,311	—	2,549,311
紙出版	—	744,018	744,018	—	744,018
その他	214,328	246,555	460,884	—	460,884
顧客との契約から生じる収益	6,117,339	3,350,381	9,467,721	—	9,467,721
外部顧客への売上高	6,117,339	3,350,381	9,467,721	—	9,467,721
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,433	95,142	96,575	△96,575	—
計	6,118,773	3,445,523	9,564,296	△96,575	9,467,721
セグメント利益	274,335	597,634	871,969	301	872,270

(注) 1. セグメント利益の調整額301千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	4,971,282	—	4,971,282	—	4,971,282
他社配信	113,551	2,405,414	2,518,965	—	2,518,965
紙出版	—	544,277	544,277	—	544,277
その他	118,675	179,073	297,748	—	297,748
顧客との契約から生じる収益	5,203,508	3,128,765	8,332,274	—	8,332,274
外部顧客への売上高	5,203,508	3,128,765	8,332,274	—	8,332,274
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27,600	93,134	120,734	△120,734	—
計	5,231,108	3,221,900	8,453,008	△120,734	8,332,274
セグメント利益又は損失(△)	△50,271	550,038	499,766	95	499,862

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額95千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。